

夏休みには新聞を毎日読み、同時に読書に励もう

—神奈川県相模原市での知的障害者 19 名の刺殺事件にも関心をもとう—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 7月28日(木)に関東地方もようやく長かった梅雨が明け、昨日7月29日(金)より暑い夏が本格的に始まりました。
- (2) 子どもたちは夏休みに入りましたので、この夏休み中にやって頂きたいことを2つご提案させていただきます。
- (3) 1つは新聞を毎日読むこと、もう1つは本格的な読書に励むこと。この2つです。

2. (1) 7月27日(水)早朝に、神奈川県相模原市の障害者施設で元職員が19名を刺殺するという痛ましい事件が発生し、騒然とした日々が続いています。

(2) この痛ましい犯罪の原因は何なのか、その原因究明と、どうしたら同様の犯罪の発生を防ぐことができるのかの対策が必要です。

(3) 子どもたちは夏休みに入りましたので、御家庭でも新聞を子どもたちとともに読み、この犯罪の原因は何なのか、同様の犯罪の再発防止にはどうしたらよいかを自分の力で考えて頂きたいと存じます。

(4) 開倫塾では、7月28日(木)に夏期講習会に来ていた塾生の皆様をお願いをして、この事件についてのアンケート調査を実施し、この事件の報道に接してどう考えたのかをお聞きしました。アンケートの結果は現在集計中です。来週8月6日のこの番組でご報告させていただきます。

(5) 新聞を読んで身に着く力は3つあります。

- ① 自分で考える力
- ② 批判的思考能力
- ③ 読解力

です。特に、5W1H で書かれた論理的な文章を早く正確に読み解く力が、新聞を毎日読むことで身に着きます。

(6) 是非、この夏休み中に新聞を熱心になめるように読み、自分で考える力、批判的思考能力、読解力の3つの力を身に着けて頂きたいと思えます。

3. (1) この夏休み中にやって頂きたいことのもう1つは本格的な読書です。

(2) 私がお勧めしたいのは、お気に入りの作家や筆者を一人決めて、その人の本を何冊か続けて読むことです。また、その作家のシリーズものの大半をこの夏休み中に読んでしまうことです。

- (3) 私が最近読んだのは女優の沢村貞子さんの書かれた本で、文庫本になっているものです。NHK の朝の TV ドラマ「とと姉ちゃん」のモデルになった方が出版した「暮しの手帖」を高校生のころから図書館で読んでいたので、「暮しの手帖」の「^{すてき}素敵なあなたに」のコーナーによく文章を書いていた沢村貞子さんのことが思い出されて急に懐かしくなり、手元にあった以前に読んだことのある本を毎日 1 冊ずつ読んでいました。これも 1 つの読書の方法です。
- (4) 今年はスペインの文豪、セルバンテスの没後 400 年なので、6 月には代表作の「ドン・キホーテ」(岩波文庫)6 冊のうち 5 冊を読み終え、中世の騎士道精神の一端を知りました。
- (5) 昨年の GW から 6 月にかけては、カナダの作家モンゴメリの代表作「赤毛のアン」12 巻シリーズのうち 10 巻余りを読みました。「赤毛のアン」は小学生のための物語であるが、大人になっても面白く読めるもので、読んでいてカナダの自然が目に浮かび、10 数年前に行ったカムループスの山々を思い出したりしました。
- (6) 読書にはいろいろな方法、やり方がありますので、いろいろな方法にチャレンジしてくださいね。
- (7) 読書により身に着くのは、①時空を超えた作者、著者との対話をすることで「自分自身を振り返る力」(自省、省察)と②ものごとを深く考える「思慮深さ」、③文章を正確に読み解く「読解力」。この 3 つだと考えます。
- (8) 新聞と読書で夏休みを有意義に過ごしてくださいね。

2016 年 7 月 29 日(金)
9:00 ~ 9:15
CRT とちぎ放送局で収録
林 明夫